

科目名	文芸文化入門		
担当教員名	小林 実		
ナンバリング	KGa101		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

パワーポイントを用いた講座と、実際の鑑賞を通して学ぶ授業です。

科目の概要

文学と芸術に関する基礎知識を学びながら、文芸文化学科での学びの導入となる科目です。知っているつもりの概念を正確に定義しながら、作品鑑賞のための問題意識を育みます。都合により授業の順序が入れ替わる場合もあります。

学修目標 (= 到達目標)

読書や芸術鑑賞の幅を広げ、自分なりの思考を巡らせるようになることを学修目標とします。

内容	
1	ノートテイキング
2	芸術とは何か？
3	文学で世界を支配できるか？
4	古典芸術の時間感覚
5	小説と物語のちがい
6	思考実験としての芸術
7	伝統芸能鑑賞 (1)
8	伝統芸能鑑賞 (2)
9	伝統芸能鑑賞 (3)
10	作品と時代背景
11	ことばと無意識
12	ことばの軽重
13	裏読み(ロマネスク)の快樂
14	教科書がわりの文学・芸術
15	長い読書

評価

リアクションペーパー50点、学期末レポート50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】特にありません。

【事後学修】毎授業後にノートを整理しなおすこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しません。毎回の授業時にプリントを配布します。

【推薦書】特に指定ませんが、授業時に紹介されることがあります。

【参考図書】特に指定ませんが、授業時に紹介されることがあります。

科目名	文芸文化概論		
担当教員名	落合 真裕		
ナンバリング	KGa102		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「文芸文化入門」と関連があります。

科目の概要

「文芸文化入門」を土台とし、人間の豊かな想像力が生み出した多様な言語芸術、文化事象を概説するとともに、世界の文学、芸術を幅広く現代的な観点から研究・読解するための様々なアプローチを考えていきます。国の枠を超えて、文学、芸術を、歴史学的、社会学的、哲学的、思想的に研究し、読解を試みるための枠組みを提供し、個々の研究への応用を考え、専門分野に対する理解の深化を促します。

学修目標 (= 到達目標)

言語を媒体とする文化を社会との関係から考察し共有することで文芸に対する深い知識、研ぎ澄まされた感性、鋭い観察眼を養うことを目指します。

内容

1	ガイダンス
2	世界の文学とその歴史について
3	作家論的アプローチ 1
4	作家論的アプローチ 2
5	伝統芸能・芸術鑑賞
6	作品論的アプローチ 1
7	作品論的アプローチ 2
8	読者の観点から
9	伝統芸能・芸術鑑賞
10	歴史的・社会的背景からのアプローチ
11	比較によるアプローチ
12	芸術作品研究の実践
13	芸術作品研究の実践
14	伝統芸能・芸術鑑賞
15	まとめ

評価

授業への参加度20%、レポート40%、筆記試験40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】各回で取り上げる作家や作品について事前に調べたうえで授業に臨んでください。

【事後学修】授業内での意見交換を通じて出てきた疑問点や問題点について調べ、次の授業で答えられるようにしてきてく

ださい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】随時プリントを配布します。

科目名	日本語基礎		
担当教員名	中川 秀太		
ナンバリング	KGb006		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

日本語を適切に表現する上で必要な敬語、文法、語彙、言葉の意味、表記、漢字の6領域の内容を理解し、ことばの知識と表現力を身につける。実生活に即した場面を想定した問題を解くことで、社会人になるにあたって必要な日本語力を養う。

科目の概要

テキストに掲載されている問題を解き、より正確な日本語力を身につける。また、随時、確認テストを行い、知識の定着をはかる。

学修目標

日本語を適切に理解し活用すること、日本語に対する関心を高め、積極的にことばを学ぶ態度を養うことが目標である。

内容	
1	オリエンテーション 日本語を学ぶ意義を考える
2	敬語 1 (尊敬語・謙譲語・丁寧語)
3	敬語 2 (場面や状況に応じたことばの使い分け)
4	敬語 3 (間違いやすい敬語)
5	敬語の学習のまとめ
6	文法 1 (活用・可能動詞・受身・使役・文のねじれ)
7	文法 2 (接続語・助動詞・助詞)
8	文法の学習のまとめ
9	語彙 1 (言葉と言葉の関係)
10	語彙 2 (類義語・対義語)
11	言葉の意味 1 (多義語・言葉の使い方)
12	言葉の意味 2 (慣用句)
13	表記 (漢字・送り仮名・仮名遣いの誤り)
14	漢字 (語構成・形の似た漢字・同音異義語・同音異字・同訓異字・四字熟語)
15	まとめ

評価

平常点 (授業中に課す確認テストなど) 40%、期末テスト60% とし、総合評価60点以上を合格とする

授業外学習

【事前予習】それぞれの分野の解説部分に目を通す。

【事後学修】間違った問題、理解が浅い内容について、再度問題を解いてみる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】日本語検定委員会編（2010）『ステップアップ日本語講座 中級』東京書籍

科目名	日本語基礎		
担当教員名	星野 祐子		
ナンバリング	Kgb006		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

日本語を適切に表現する上で必要な敬語、文法、語彙、言葉の意味、表記、漢字の6領域の内容を理解し、ことばの知識と表現力を身につける。実生活に即した場面を想定した問題を解くことで、社会人になるにあたって必要な日本語力を養う。

科目の概要

テキストに掲載されている問題を解き、より正確な日本語力を身につける。また、随時、確認テストを行い、知識の定着をはかる。

学修目標

日本語を適切に理解し活用すること、日本語に対する関心を高め、積極的にことばを学ぶ態度を養うことが目標である。

内容	
1	オリエンテーション 日本語を学ぶ意義を考える
2	敬語 1（尊敬語・謙譲語・丁寧語）
3	敬語 2（場面や状況に応じたことばの使い分け）
4	敬語 3（間違いやすい敬語）
5	敬語の学習のまとめ
6	文法 1（活用・可能動詞・受身・使役・文のねじれ）
7	文法 2（接続語・助動詞・助詞）
8	文法の学習のまとめ
9	語彙 1（言葉と言葉の関係）
10	語彙 2（類義語・対義語）
11	言葉の意味 1（多義語・言葉の使い方）
12	言葉の意味 2（慣用句）
13	表記（漢字・送り仮名・仮名遣いの誤り）
14	漢字（語構成・形の似た漢字・同音異義語・同音異字・同訓異字・四字熟語）
15	まとめ

評価

平常点（授業中に課す確認テストなど）40%、期末テスト60% とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】それぞれの分野の解説部分に目を通す。

【事後学修】間違った問題、理解が浅い内容について、再度問題を解いてみる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】日本語検定委員会編（2010）『ステップアップ日本語講座 中級』東京書籍

科目名	日本語基礎		
担当教員名	稲葉 美樹		
ナンバリング	Kgb006		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	1	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

日本語を適切に表現する上で必要な敬語、文法、語彙、言葉の意味、表記、漢字の6領域の内容を理解し、ことばの知識と表現力を身につける。実生活に即した場面を想定した問題を解くことで、社会人になるにあたって必要な日本語力を養う。

科目の概要

テキストに掲載されている問題を解き、より正確な日本語力を身につける。また、随時、確認テストを行い、知識の定着をはかる。

学修目標

日本語を適切に理解し活用すること、日本語に対する関心を高め、積極的にことばを学ぶ態度を養うことが目標である。

内容	
1	オリエンテーション 日本語を学ぶ意義を考える
2	敬語 1（尊敬語・謙譲語・丁寧語）
3	敬語 2（場面や状況に応じたことばの使い分け）
4	敬語 3（間違いやすい敬語）
5	敬語の学習のまとめ
6	文法 1（活用・可能動詞・受身・使役・文のねじれ）
7	文法 2（接続語・助動詞・助詞）
8	文法の学習のまとめ
9	語彙 1（言葉と言葉の関係）
10	語彙 2（類義語・対義語）
11	言葉の意味 1（多義語・言葉の使い方）
12	言葉の意味 2（慣用句）
13	表記（漢字・送り仮名・仮名遣いの誤り）
14	漢字（語構成・形の似た漢字・同音異義語・同音異字・同訓異字・四字熟語）
15	まとめ

評価

平常点（授業中に課す確認テストなど）40%、期末テスト60% とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】それぞれの分野の解説部分に目を通す。

【事後学修】間違った問題、理解が浅い内容について、再度問題を解いてみる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】日本語検定委員会編（2010）『ステップアップ日本語講座 中級』東京書籍

科目名	日本語表現		
担当教員名	小林 実		
ナンバリング	KGb007		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（国語） / 高等学校教諭一種免許状（国語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

レポート、論文などのアカデミックな文章を作成するにあたって、その基本となる日本語表現スキルを修得する。日本語表現（2年次）、日本語表現（3年次）の基礎となる科目である。

科目の概要

相手に伝わる文章、論理的な文章の工夫を理解する。授業中に課される各種課題（自己PR文、意見文、報告文など）に随時取り組み、添削を受けることで、文章を執筆するうえでの基本的なスキルを身につける。

学修目標（=到達目標）

課題に主体的に取り組み、論理的な文章を書くことができる。自己PR文、意見文、報告文など各種文章の目的を理解し、その目的を達成することができる。自ら書いた文章を点検し、よりよく推敲することができる。

内容	
1	オリエンテーション
2	論理的な文章とは
3	文の長さを読みやすさ 「一文一義」で書く
4	語句の選択
5	正確な表記
6	事実と意見の書き分け
7	ブレインストーミング
8	パラグラフを作る
9	意見文を書く 主張と根拠
10	資料を引用する
11	要約をする
12	文章展開を考える 指示詞・接続詞・予告と整理の表現
13	レポートを書く
14	推敲する
15	まとめ

評価

授業への参加度30%、課題への取り組み30%、学期末に課す課題40% とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】スケジュールに従い、該当の学習部分について目を通す。前時に出された課題に取り組み、本時の学習テーマ

を理解する。

【事後学修】学習内容を活かし推敲に取り組む。わかりやすい文章の書き方を意識し、そのスキルの向上に努める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】開講時に指示する

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

科目名	日本語表現		
担当教員名	中川 秀太		
ナンバリング	KGb007		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（国語） / 高等学校教諭一種免許状（国語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

レポート、論文などのアカデミックな文章を作成するにあたって、その基本となる日本語表現スキルを修得する。日本語表現（2年次）、日本語表現（3年次）の基礎となる科目である。

科目の概要

相手に伝わる文章、論理的な文章の工夫を理解する。授業中に課される各種課題（自己PR文、意見文、報告文など）に随時取り組み、添削を受けることで、文章を執筆するうえでの基本的なスキルを身につける。

学修目標（=到達目標）

課題に主体的に取り組み、論理的な文章を書くことができる。自己PR文、意見文、報告文など各種文章の目的を理解し、その目的を達成することができる。自ら書いた文章を点検し、よりよく推敲することができる。

内容

1	オリエンテーション
2	論理的な文章とは
3	文の長さを読みやすさ 「一文一義」で書く
4	語句の選択
5	正確な表記
6	事実と意見の書き分け
7	ブレーストーミング
8	パラグラフを作る
9	意見文を書く 主張と根拠
10	資料を引用する
11	要約をする
12	文章展開を考える 指示詞・接続詞・予告と整理の表現
13	レポートを書く
14	推敲する
15	まとめ

評価

授業への参加度30%、課題への取り組み30%、学期末に課す課題40% とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】スケジュールに従い、該当の学習部分について目を通す。前時に出された課題に取り組み、本時の学習テーマ

を理解する。

【事後学修】学習内容を活かし推敲に取り組む。わかりやすい文章の書き方を意識し、そのスキルの向上に努める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】開講時に指示する

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

科目名	日本語表現		
担当教員名	星野 祐子		
ナンバリング	KGb007		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（国語） / 高等学校教諭一種免許状（国語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

レポート、論文などのアカデミックな文章を作成するにあたって、その基本となる日本語表現スキルを修得する。日本語表現（2年次）、日本語表現（3年次）の基礎となる科目である。

科目の概要

相手に伝わる文章、論理的な文章の工夫を理解する。授業中に課される各種課題（自己PR文、意見文、報告文など）に随時取り組み、添削を受けることで、文章を執筆するうえでの基本的なスキルを身につける。

学修目標（=到達目標）

課題に主体的に取り組み、論理的な文章を書くことができる。自己PR文、意見文、報告文など各種文章の目的を理解し、その目的を達成することができる。自ら書いた文章を点検し、よりよく推敲することができる。

内容	
1	オリエンテーション
2	論理的な文章とは
3	文の長さを読みやすさ 「一文一義」で書く
4	語句の選択
5	正確な表記
6	事実と意見の書き分け
7	ブレーストーミング
8	パラグラフを作る
9	意見文を書く 主張と根拠
10	資料を引用する
11	要約をする
12	文章展開を考える 指示詞・接続詞・予告と整理の表現
13	レポートを書く
14	推敲する
15	まとめ

評価

授業への参加度30%、課題への取り組み30%、学期末に課す課題40% とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】スケジュールに従い、該当の学習部分について目を通す。前時に出された課題に取り組み、本時の学習テーマ

を理解する。

【事後学修】学習内容を活かし推敲に取り組む。わかりやすい文章の書き方を意識し、そのスキルの向上に努める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】開講時に指示する

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

科目名	日本語表現		
担当教員名	上野 左絵		
ナンバリング	KGb007		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（国語） / 高等学校教諭一種免許状（国語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

レポート、論文などのアカデミックな文章を作成するにあたって、その基本となる日本語表現スキルを修得する。日本語表現（2年次）、日本語表現（3年次）の基礎となる科目である。

科目の概要

相手に伝わる文章、論理的な文章の工夫を理解する。授業中に課される各種課題（自己PR文、意見文、報告文など）に随時取り組み、添削を受けることで、文章を執筆するうえでの基本的なスキルを身につける。

学修目標（=到達目標）

課題に主体的に取り組み、論理的な文章を書くことができる。自己PR文、意見文、報告文など各種文章の目的を理解し、その目的を達成することができる。自ら書いた文章を点検し、よりよく推敲することができる。

内容	
1	オリエンテーション
2	論理的な文章とは
3	文の長さを読みやすさ 「一文一義」で書く
4	語句の選択
5	正確な表記
6	事実と意見の書き分け
7	ブレーストーミング
8	パラグラフを作る
9	意見文を書く 主張と根拠
10	資料を引用する
11	要約をする
12	文章展開を考える 指示詞・接続詞・予告と整理の表現
13	レポートを書く
14	推敲する
15	まとめ

評価

授業への参加度30%、課題への取り組み30%、学期末に課す課題40% とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】スケジュールに従い、該当の学習部分について目を通す。前時に出された課題に取り組み、本時の学習テーマ

を理解する。

【事後学修】学習内容を活かし推敲に取り組む。わかりやすい文章の書き方を意識し、そのスキルの向上に努める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】開講時に指示する

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

科目名	基礎演習		
担当教員名	東 聖子		
ナンバリング	KGc108		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

最終学年で行う卒業研究に向けて、研究活動の基礎技術を学修する科目です。初年次から演習形式で学ぶことにより、卒業研究にあたって求められる基本的な技術・スキルを身につけます。文化事象を「読む」ために、資料調査や文献分析の基礎知識を身につけ、プレゼンテーションと議論を通じて共同的に思考を深めることを体験的に学修します。これらを通じて演習形式の授業に親しみ、調査力、分析力、読解力、思考力、発想力を磨くことを目的とします。

内容

学生各自の調査にもとづく発表と討議による演習形式により主体的な学習態度を身につけます。学生の発表と討議による演習形式を中心とします。

最初の数回は講義形式で、研究ということや、その対象に応じた研究方法、資料調査や文献分析の基礎技術などについて説明を行います。その上で、実際の演習での具体的な対象・方法・発表の手順や担当のスケジュールを決めます。

発表者は担当した内容について、事前に資料・参考文献を調べたり、自分で「読み」を深めたり、考察を行ったりして、発表用資料を作成します。授業では、発表用資料にもとづいて発表を行い、その後、参加者全員で討議していきます。

学期末には発表をもとにレポートなどにまとめます。

評価

演習の担当部分の発表4割、最終レポート・作成物など4割、質疑応答などの平常の活動を2割とし、総合評価60点以上を合格とします。?

授業外学習

【事前予習】発表者のテーマについて自分の問題意識で調べておく。

【事後学修】発表・討議の内容から自分の関心・興味に関わることを調べる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書は演習内容 (対象) が具体化した場合、購入してもらう場合があります。

参考図書は必要に応じて授業中に紹介します。??

科目名	基礎演習		
担当教員名	武田 比呂男		
ナンバリング	KGc108		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

最終学年で行う卒業研究に向けて、研究活動の基礎技術を学修する科目です。初年次から演習形式で学ぶことにより、卒業研究にあたって求められる基本的な技術・スキルを身につけます。文化事象を「読む」ために、資料調査や文献分析の基礎知識を身につけ、プレゼンテーションと議論を通じて共同的に思考を深めることを体験的に学修します。これらを通じて演習形式の授業に親しみ、調査力、分析力、読解力、思考力、発想力を磨くことを目的とします。

内容

学生各自の調査にもとづく発表と討議による演習形式により主体的な学習態度を身につけます。学生の発表と討議による演習形式を中心とします。

最初の数回は講義形式で、研究ということや、その対象に応じた研究方法、資料調査や文献分析の基礎技術などについて説明を行います。その上で、実際の演習での具体的な対象・方法・発表の手順や担当のスケジュールを決めます。

発表者は担当した内容について、事前に資料・参考文献を調べたり、自分で「読み」を深めたり、考察を行ったりして、発表用資料を作成します。授業では、発表用資料にもとづいて発表を行い、その後、参加者全員で討議していきます。

学期末には発表をもとにレポートなどにまとめます。

評価

演習の担当部分の発表4割、最終レポート・作成物など4割、質疑応答などの平常の活動を2割とし、総合評価60点以上を合格とします。?

授業外学習

【事前予習】発表者のテーマについて自分の問題意識で調べておく。

【事後学修】発表・討議の内容から自分の関心・興味に関わることを調べる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書は演習内容 (対象) が具体化した場合、購入してもらう場合があります。

参考図書は必要に応じて授業中に紹介します。??

科目名	基礎演習		
担当教員名	樋口 一貴		
ナンバリング	KGc108		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

最終学年で行う卒業研究に向けて、研究活動の基礎技術を学修する科目です。初年次から演習形式で学ぶことにより、卒業研究にあたって求められる基本的な技術・スキルを身につけます。文化事象を「読む」ために、資料調査や文献分析の基礎知識を身につけ、プレゼンテーションと議論を通じて共同的に思考を深めることを体験的に学修します。これらを通じて演習形式の授業に親しみ、調査力、分析力、読解力、思考力、発想力を磨くことを目的とします。

内容

学生各自の調査にもとづく発表と討議による演習形式により主体的な学習態度を身につけます。学生の発表と討議による演習形式を中心とします。

最初の数回は講義形式で、研究ということや、その対象に応じた研究方法、資料調査や文献分析の基礎技術などについて説明を行います。その上で、実際の演習での具体的な対象・方法・発表の手順や担当のスケジュールを決めます。

発表者は担当した内容について、事前に資料・参考文献を調べたり、自分で「読み」を深めたり、考察を行ったりして、発表用資料を作成します。授業では、発表用資料にもとづいて発表を行い、その後、参加者全員で討議していきます。

学期末には発表をもとにレポートなどにまとめます。

評価

演習の担当部分の発表4割、最終レポート・作成物など4割、質疑応答などの平常の活動を2割とし、総合評価60点以上を合格とします。?

授業外学習

【事前予習】発表者のテーマについて自分の問題意識で調べておく。

【事後学修】発表・討議の内容から自分の関心・興味に関わることを調べる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書は演習内容 (対象) が具体化した場合、購入してもらう場合があります。

参考図書は必要に応じて授業中に紹介します。??

科目名	基礎演習		
担当教員名	小林 実		
ナンバリング	KGc108		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

最終学年で行う卒業研究に向けて、研究活動の基礎技術を学修する科目です。初年次から演習形式で学ぶことにより、卒業研究にあたって求められる基本的な技術・スキルを身につけます。文化事象を「読む」ために、資料調査や文献分析の基礎知識を身につけ、プレゼンテーションと議論を通じて共同的に思考を深めることを体験的に学修します。これらを通じて演習形式の授業に親しみ、調査力、分析力、読解力、思考力、発想力を磨くことを目的とします。

内容

学生各自の調査にもとづく発表と討議による演習形式により主体的な学習態度を身につけます。学生の発表と討議による演習形式を中心とします。

最初の数回は講義形式で、研究ということや、その対象に応じた研究方法、資料調査や文献分析の基礎技術などについて説明を行います。その上で、実際の演習での具体的な対象・方法・発表の手順や担当のスケジュールを決めます。

発表者は担当した内容について、事前に資料・参考文献を調べたり、自分で「読み」を深めたり、考察を行ったりして、発表用資料を作成します。授業では、発表用資料にもとづいて発表を行い、その後、参加者全員で討議していきます。

学期末には発表をもとにレポートなどにまとめます。

評価

演習の担当部分の発表 4 割、最終レポート・作成物など 4 割、質疑応答などの平常の活動を 2 割とし、総合評価60点以上を合格とします。?

授業外学習

【事前予習】発表者のテーマについて自分の問題意識で調べておく。

【事後学修】発表・討議の内容から自分の関心・興味に関わることを調べる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書は演習内容 (対象) が具体化した場合、購入してもらう場合があります。

参考図書は必要に応じて授業中に紹介します。??

科目名	基礎演習		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング	KGc108		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

最終学年で行う卒業研究に向けて、研究活動の基礎技術を学修する科目です。初年次から演習形式で学ぶことにより、卒業研究にあたって求められる基本的な技術・スキルを身につけます。文化事象を「読む」ために、資料調査や文献分析の基礎知識を身につけ、プレゼンテーションと議論を通じて共同的に思考を深めることを体験的に学修します。これらを通じて演習形式の授業に親しみ、調査力、分析力、読解力、思考力、発想力を磨くことを目的とします。

内容

学生各自の調査にもとづく発表と討議による演習形式により主体的な学習態度を身につけます。学生の発表と討議による演習形式を中心とします。

最初の数回は講義形式で、研究ということや、その対象に応じた研究方法、資料調査や文献分析の基礎技術などについて説明を行います。その上で、実際の演習での具体的な対象・方法・発表の手順や担当のスケジュールを決めます。

発表者は担当した内容について、事前に資料・参考文献を調べたり、自分で「読み」を深めたり、考察を行ったりして、発表用資料を作成します。授業では、発表用資料にもとづいて発表を行い、その後、参加者全員で討議していきます。

学期末には発表をもとにレポートなどにまとめます。

評価

演習の担当部分の発表 4 割、最終レポート・作成物など 4 割、質疑応答などの平常の活動を 2 割とし、総合評価60点以上を合格とします。?

授業外学習

【事前予習】発表者のテーマについて自分の問題意識で調べておく。

【事後学修】発表・討議の内容から自分の関心・興味に関わることを調べる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書は演習内容 (対象) が具体化した場合、購入してもらう場合があります。

参考図書は必要に応じて授業中に紹介します。??

科目名	基礎演習		
担当教員名	落合 真裕		
ナンバリング	KGc108		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

最終学年で行う卒業研究に向けて、研究活動の基礎技術を学修する科目です。初年次から演習形式で学ぶことにより、卒業研究にあたって求められる基本的な技術・スキルを身につけます。文化事象を「読む」ために、資料調査や文献分析の基礎知識を身につけ、プレゼンテーションと議論を通じて共同的に思考を深めることを体験的に学修します。これらを通じて演習形式の授業に親しみ、調査力、分析力、読解力、思考力、発想力を磨くことを目的とします。

内容

学生各自の調査にもとづく発表と討議による演習形式により主体的な学習態度を身につけます。学生の発表と討議による演習形式を中心とします。

最初の数回は講義形式で、研究ということや、その対象に応じた研究方法、資料調査や文献分析の基礎技術などについて説明を行います。その上で、実際の演習での具体的な対象・方法・発表の手順や担当のスケジュールを決めます。

発表者は担当した内容について、事前に資料・参考文献を調べたり、自分で「読み」を深めたり、考察を行ったりして、発表用資料を作成します。授業では、発表用資料にもとづいて発表を行い、その後、参加者全員で討議していきます。

学期末には発表をもとにレポートなどにまとめます。

評価

演習の担当部分の発表4割、最終レポート・作成物など4割、質疑応答などの平常の活動を2割とし、総合評価60点以上を合格とします。?

授業外学習

【事前予習】発表者のテーマについて自分の問題意識で調べておく。

【事後学修】発表・討議の内容から自分の関心・興味に関わることを調べる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書は演習内容 (対象) が具体化した場合、購入してもらう場合があります。

参考図書は必要に応じて授業中に紹介します。??

科目名	文化を考える		
担当教員名	武田 比呂男		
ナンバリング	KGd111		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

洗練された高級なもの、教養として身に着けるべきもの、というようなイメージを持たれたり、振る舞いや信念を基礎づけるものとされたりもする「文化」について考察し、文学・芸術などの文化事象にかかわる自らの姿勢を検証し、そうした文化事象を理解するための基盤を作ることを目的とします。翻訳語として誕生した「文化」という語の考察からはじめ、「文化」の定義や範疇、概念の変遷、担い手や主体性の問題、文化の融合・衝突、政治・社会とのかかわり、物質的なものと精神的なものとの関係など、多方面から「文化」についてアプローチしていきます。

内容

- (1) 「文化」という言葉
- (2) 人間と動物
- (3) 環境世界と情報
- (4) 工作する人間
- (5) 遊戯する人間
- (6) 言葉と文化
- (7) 物語する人間
- (8) 記録する人間
- (9) 文化と記号
- (10) 文化を記述する
- (11) 植民地主義と文化
- (12) 文化の接触と複合
- (13) グローバリズムとローカリズム
- (14) 文化の衝突
- (15) まとめ

講義の内容・順序は必要に応じて変更することがあります。

評価

筆記試験 7 割、レポート・提出物など 3 割、60 点以上を合格とします。

合格点に満たなかった場合、「再試験」を実施する予定です。

授業外学習

【事前予習】各回の授業内容に関わるキーワードや事項を調べておく。

【事後学修】講義ノートやプリントをもとに授業を振り返り、整理し直し、分からないことは調べておく。興味関心を持った内容は発展的に調べたり、関連書籍を読むなどする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書は指定しません。読書レポートの対象はできるだけ購入して下さい。

参考図書は必要に応じて授業中に紹介します。

参考文献：

そのほか参考文献は授業中随時紹介します。

科目名	日本と異文化		
担当教員名	小林 実		
ナンバリング	KGd212		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	学芸員資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

パワーポイントを用いた講義形式の授業です。

科目の概要

まず「日本」とはどのような概念なのかということを確認します。そのうえで、外国地域を「異界」とみなす感覚について、過去の事例をもとに紹介します。さらに「異文化」を自分の文化のように理解することの難しさと、勝手な解釈により自分の文化の内に取り込む様子を、身近な例をたよりに考察します。最後に自分の文化を見直すためのヒントとして異文化に積極的に触れることの大切さについて学びます。

学修目標 (= 到達目標)

身近な文化における多様な由来を理解すると同時に、日本人にはなじみのない文化 (習慣や思考) があることも知り、それを自身の生活を再考するヒントとして捉えられるようになることを到達目標とします。

内容

1	基礎講座 1 : 「日本」「日本人」「日本語」の相対性を考える
2	基礎講座 2 : 「差異」をとらえる思考
3	異界認識のありかた 1 - 不可視を想像する文芸 -
4	異界認識のありかた 2 - 地図にみる主観的な世界認識 -
5	異界認識のありかた 3 - 幕末開港期日本人の外国理解 -
6	異界認識の作用 1 - 大津事件と西郷隆盛生存伝説 -
7	異界認識の作用 2 - 源義経 = ジングスカン伝説 -
8	異文化理解の困難 1 - ジャポニズムとしての伝統文化 -
9	異文化理解の困難 2 - コンテンツ・ツーリズム -
10	異文化受容と土着化 1 - カフェの歴史 -
11	異文化受容と土着化 2 - 洋食とB級グルメ -
12	異文化受容と土着化 3 - アメリカ文化と戦後民主主義下における若者 -
13	異文化理解と異文化活用 1 - タタールにみるユーラシアの感性 -
14	異文化理解と異文化活用 2 - ダーチャとロシア文化 -
15	異文化理解と異文化活用 3 - 文化の積極的よみかえ -

評価

毎回のリアクションペーパー (50点)、学期末レポート (50点) とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】特に必要ありません。

【事後学修】授業内容をノートにまとめなおすこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】毎回授業時にプリントを配布します。

【推薦書】特に指定しません。授業時に紹介することもあります。

【参考図書】特に指定しません。

科目名	世界の演劇		
担当教員名	落合 真裕		
ナンバリング	KGd213		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

芸術文化関連の基礎科目となります。

視覚文化であるパフォーマンス芸術の実例に多く触れ、自分の関心のある分野に自覚的、積極的にアプローチすることを目的とします。西洋を中心に、古代ギリシアから始まって現代に至る緩やかな時代順に、その基本的な概念、特性、意義、現在の課題、可能性を考察していきます。

時代によって主題や様式が変化する理由を歴史的、社会的背景から多角的に探ることで、演劇と人間生活との関わりを理解する思考を習得し、演劇文化をより深く理解する視点を得られるようにします。

内容

1	ガイダンス
2	ギリシャとローマの演劇
3	中世の演劇
4	イタリア・ルネッサンスの演劇
5	エリザベス朝の演劇
6	スペインとフランスの黄金時代
7	イギリス王政復古期の演劇
8	18世紀のドイツ演劇
9	19世紀前期の演劇
10	19世紀後期の演劇
11	イプセン、チェーホフなどの思想劇
12	現代演劇 1
13	現代演劇 2
14	作品鑑賞
15	まとめ

評価

授業への参加度20%、レポート40%、試験40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】授業で扱う作品や時代背景などは事前に各自で調べてから授業に臨んでください。

【事後学修】授業で取り上げた作品や作家について各自でまとめておくようにしてください。毎回授業の冒頭で前回の授業の内容について質問をします。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】随時プリントを配布します。

科目名	芸術とことば		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング	KGd214		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格・・・「朗読」は声で作品の内容を聞き手に伝える表現行為である。ナレーションや朗読の実践講座の中で、日本の文学や文芸を鑑賞する力を養う。

科目の概要・・・文章は声に出して読むことによって、その内容をより深く理解できる。さらに、作者の呼吸や作品の奥深さに気づくこともある。日本語の音声表現の基礎を学びながら、様々な作品を読み、画面に合わせてのナレーションも体験する。授業は演習形式で行われ、下読みなどの予習も必要となるので、意欲のある学生の参加を希望する。

学修目標・・・作品を深く理解し、声で伝える能力を身につける。さらに、日本語への関心を高め、ことばの感性を磨く。

内容	
1	「朗読」の基礎と魅力
2	伝わる読みのポイント
3	随筆を読む
4	小説を朗読する
5	小説を朗読する
6	詩の朗読
7	詩の朗読
8	間を生かして短歌を読む
9	俳句に親しむ
10	調べを大切に古典作品を読む
11	古典作品を味わう
12	絵本の読み聞かせ
13	昔話の魅力
14	朗読発表
15	まとめ

評価

日頃の授業への参加意欲・下調べや下読みが十分か (50%) 発表の成績 (50%) を総合して評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】その日の教材を熟読し、声に出して下読みする。

【事後学修】学んだことを発展させ、課題に取りくむ。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使わない。プリントを事前に配布する。

【参考図書】半谷進彦・佐々木端著『基礎から学ぶアナウンス』（NHK出版）

河合隼雄・阪田寛夫・谷川俊太郎・池田直樹『声の力』（岩波書店）

科目名	日本語学入門		
担当教員名	星野 祐子		
ナンバリング	KGe115		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

日本語学に関して包括的な内容を学ぶ。私たちにとって身近な日本語を、客観的に観察・分析することで、普段は意識していない日本語の規則や表現工夫を探っていく。

科目の概要

講義では、日本語についての具体的かつ身近な事例を取り上げながら、日本語学の基礎的事項を解説する。また、適宜、確認テストや課題を課し、知識と理解の定着をはかる。

学修目標

身近な日本語に興味・関心を持つ。日本語の持つ規則性と体系性を理解する。

内容	
1	オリエンテーション
2	日本語の音と形 1 (発音のしくみ・特殊拍)
3	日本語の音と形 2 (五十音図・音素と異音)
4	日本語の音と形 3 (アクセント・漢字かな交じり文・短縮語)
5	日本語の文法 1 (活用・格助詞)
6	日本語の文法 2 (使役・受身)
7	日本語の文法 3 (テンス・モダリティ・条件)
8	日本語らしい表現 1 (省略・「は」と「が」)
9	日本語らしい表現 2 (とりたて助詞・「のだ」)
10	日本語らしい表現 3 (授受表現・敬語・日本語学習者の日本語)
11	日本語の変化と多様性 1 (ら抜きことば・現代語に残る古典語)
12	日本語の変化と多様性 2 (日本語の地域差・方言の周圏分布)
13	日本語の変化と多様性 3 (ことばの位相差・現代敬語の特徴・ことばに潜む差別)
14	日本語の世界とは
15	まとめ

評価

授業への参加度20%、授業中に課す小レポート20%、期末テスト60% とし、総合評価 60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】学習内容に関連して、自らの日本語使用や身近な日本語を振り返る。

【事後学修】学習内容に関連して、規範的な日本語使用と実際の日本語使用の相違に関心を持つ。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】庵功雄他（2003）『やさしい日本語のしくみ』くろしお出版

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

科目名	言語学入門		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング	KGe116		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ことばの面白さを知る！

この授業は、アクティブラーニング (学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」) による参加型授業です。おすすめです。

科目の概要

特に気づくこともなく使っている身の回りのことばやコミュニケーションを、何で？ どうして？ を大切に言語研究でわかってきたさまざまな成果を元に考察していきます。

情報のインプットだけでなく、情報の目利きとして生きることの楽しさについても考えます。みなさんの様々なアイデア・思考を期待します。

大学での学び・気づきのきっかけになると嬉しいです。

学修目標 (= 到達目標)

単なる知識の伝授だけでなく、ことばを通して考えるプロセスも訓練し、身近なものの中に問いを立てることの習慣化を目指します。

内容

- 第1回 インストラクション (授業の方法と評価の仕方)
- 第2回 言語学のイメージ、ことばについての思い込みを探る
- 第3回 言語学が重視しているものとは
- 第4回 言語学の考え方
- 第5回 言語は人間だけのもの？
- 第6回 言語の音声について
- 第7回 世界中の言語音を記述する方法
- 第8回 文法と意味
- 第9回 振り返りとリサーチの手法 1
- 第10回 世界の言語はいくつあるのか
- 第11回 言語の歴史を考える
- 第12回 美しい言語、汚い言語
- 第13回 言語学は役に立つのか
- 第14回 リサーチの手法 2
- 第15回 振り返りと意味づけ

評価

課題を基に総合的に評価します。 授業への参加意欲25%、授業ごとに提出する振り返りシート35%、提出物40%で

総合して評価する。以下、提出物等の評価は、振り返り・・・1~7ポイント（提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント） レポート・課題・・・3~8ポイント 最終課題or試験・・・5~10ポイント をもとに、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】1週間の中でことばやコミュニケーションについての疑問や発見をまとめておく。事前課題の確認。

【事後学修】* 毎回授業後48時間以内に まとめ（何を学べたか）&感想（質問えを含む） Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ（具体的な修正アイデア）」を提出。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

黒田龍之介『はじめての言語学』講談社現代新書

科目名	日本文学史 A		
担当教員名	赤間 恵都子		
ナンバリング	KGe217		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

私たちの祖先はどのような文学を生み出し、それをどのように発展させていったのか。この科目では古代日本の歴史や文化の流れをたどりながら日本文学の始まりとその展開について学びます。

上代・中古文学の代表的な作品を時代順に取り上げ、それぞれの作品が生まれた必然性と文学史的な価値について学習します。さらに部分的に原文を読んで、古典文学の醍醐味を味わいたいと思います。

文学が発生して徐々に形式が出来上がり、文学史上の最高峰の一つと言われる『源氏物語』が生まれるまで、さらにその後、中世へ引き継がれていく文学史の流れをたどることにより、古代日本人の精神活動の歴史を知り、各文学作品に対する関心を高めること、一般常識程度の知識を得ることを目標とします。

内容

1	ガイダンス・文学のはじまり
2	上代文学の時代区分と歴史的背景
3	現存最古の書『古事記』
4	最初の和歌集『万葉集』
5	その他の上代文学
6	中古文学の時代区分と歴史的背景
7	勅撰和歌集の誕生～『古今集』を中心に～
8	作り物語の世界～『竹取物語』を中心に～
9	歌物語の世界～『伊勢物語』を中心に～
10	日記文学の誕生～『土佐日記』
11	女流日記文学の世界～『蜻蛉日記』以降～
12	後宮社会と孤高の随筆『枕草子』
13	『源氏物語』と後期物語
14	歴史物語と説話文学
15	その他の中古文学・まとめ

評価

平常点30点とペーパーテスト70点で、60点以上を合格とする。

やむをえない事情で試験を欠席した場合は追試を、平常点を満たした上で60点に届かなかった場合は再試を一度だけ行います。

授業外学習

【事前予習】前回授業の疑問箇所を解決し、テキストを通読しておく。

【事後学修】授業中に記述したノートを整理し、疑問点がないか確認する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】開講後、指示します。

科目名	日本文学史 B		
担当教員名	東 聖子		
ナンバリング	KGe218		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格： 日本文学の大きな流れの中で、中世・近世文学史の〈戦乱の世を背景とした無常観と幽玄の美意識〉〈泰平の世を背景とした浮世的享楽観と多様な美意識〉という時代風潮を、巨視的に学ぶ。歴史学・美学・日本学・芸道論・美術史その他の領域をふまえて学んでいこう。

科目の概要： 中世・近世文学のそれぞれを、序・韻文・散文・芸能の順で学んでゆく、そしてそれぞれ最後に実際の文学作品を楽しく読んでゆく。絵巻物や扇面図や大和絵・浮世絵などでビジュアルに味わい、能・歌舞伎などで芸能美を楽しみたい。

学修目標： 第一に、〈中世文学史〉は鎌倉・南北朝・室町・安土桃山時代という戦乱の世であり、〈近世文学〉は江戸時代という泰平の世の文学史で対照的である。序において各文学史の特色をまとめ、そのあとで韻文・散文・その他という順序で学んでゆく。第二に、もっとも中世らしい文学、もっとも近世らしい文学を読みながら、その根底にある思想性と日本語の独自の美を楽しみたい。第三に、それぞれの時代背景の影響を色濃くうけて、さまざまな個性の作者が固有の文学を残している。時代精神と文学の関係を考えながら、「中世とは何か？近世とは何か？」というテーマを自分なりに、追いかけてよう。また文学史を学ぶ意義もあわせて考えてゆきたい。

内容

1	<文学史とは>
2	<中世文学史>の序 - 時代区分・時代背景・特色
3	A 韻文 ・和歌
4	韻文 ・連歌、俳諧の連歌 ・歌謡
5	B 散文 ・擬古物語 ・歴史物語 ・軍記物語
6	散文 ・説話文学 ・日記、紀行、随筆 ・御伽草子
7	C その他 (能、狂言・法語、五山文学)
8	作品鑑賞 (DVD)
9	<近世文学史>の序 - 時代区分・時代背景・特色
10	A 韻文 ・和歌 ・狂歌
11	韻文 ・俳諧 ・川柳
12	B 散文 ・仮名草子 ・浮世草子 ・前期読本 ・洒落本
13	散文 ・草双子 ・後期読本 ・合巻 ・滑稽本 ・人情本
14	C その他 (浄瑠璃、歌舞伎・国学)
15	まとめ 作品鑑賞 (DVD)

評価

通常の授業態度 (20点)、レポート (80点) により評価を行い、総合評価 60 点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】日本の中世と近世に関する文学作品に親しみ、歴史にも興味を持っていること。

【事後学修】中世文学あるいは近世文学において興味ある作品を選んで、読んでみることを。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業の時に指示する。

【推薦書】いずれも、開講時に指示する。テキストはよりビジュアルなものを選ぶ。

【参考図書】『中世文学史』『近世文学史』（至文堂）（学灯社）その他

科目名	日本文学史C		
担当教員名	小林 実		
ナンバリング	KGe219		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

明治から昭和にかけての小説を中心とする文学史を学びます。教科書の内容を基本としながら、さらに専門的な事柄を、パワーポイントを用いて講義します。

教養として知っておきたい作家や作品を紹介しながら、それらの時代背景、メディアの仕組み、文壇形成の条件など、「文学史」を多角的に学ぶことを目的としています。

一般常識として必要な事項を知り、覚えることを学修目標とします。

内容

1	開化期
2	新文学
3	浪漫主義
4	日清戦後文学
5	言文一致体の確立
6	自然主義
7	日露戦後文学
8	学閥
9	モダニズム
10	危機をはらんだ時代
11	近代の超克
12	近代文学の再出発
13	安定化する戦後
14	多様化する価値観
15	まとめ

評価

平常点 (50 %)、学期末のペーパーテスト (50%)。合計60 %以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】教科書をよく読んでおく。

【事後学修】授業で学習した内容を、ノートにまとめなおすこと。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】

秋山虔・三好行雄編『ビジュアル解説 原色シグマ新日本文学史』(文英堂) ISBN4-578-91080-6

その他、毎回の授業時にプリントを配布します。

科目名	日本文学の名作		
担当教員名	赤間 恵都子		
ナンバリング	KGf220		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

平安時代に初めて平仮名を用いて書かれた散文作品が物語です。『竹取物語』に始まる物語文学は、約1000年前に『源氏物語』という最高傑作を生み出すに至りました。この授業では物語文学の代表作として『源氏物語』を取り上げ、学びます。

『源氏物語』の全体構成と概要を把握した上で、部分的に原文を鑑賞しながら、限られた授業時間の中で、できるだけ作品に触れるようにします。永遠の古典を、原文を味わいながら一緒に読んでいきましょう。時々、漫画や映像などの現代メディアも利用して分かりやすい授業を展開します。

『源氏物語』が時には映画や漫画や宝塚歌劇など様々なメディアを通して現代に受け入れられているのは、人間の心の真実が時代を超えて伝わってくるからです。それこそ作者紫式部がこの物語を書いた目的でした。授業を通して紫式部の思いをとらえ、受講生それぞれの人生観を見つめ直す契機にしてくれることを願います。

内容

使用するテキストは、物語中のいくつかの場面をピックアップしながら全体の概要がわかる形になっており、半期の授業では、光源氏の一生について扱います。これは、物語全体の3分の2にあたります。以下、物語の筋に沿って、各時間の授業内容を書いておきます。

- 1 ガイダンス・作者について
- 2 作品の概要
- 3 物語の始まり (桐壺巻)
- 4 光源氏誕生 (桐壺巻)
- 5 雨夜の品定め・空蝉 (帚木巻)
- 6 中流女性との恋 (夕顔巻)
- 7 紫の君発見 (若紫巻)
- 8 車争い (葵巻)
- 9 生霊出現 (葵巻)
- 10 須磨退去 (須磨・明石巻)
- 11 六条院の栄華 (初音巻)
- 12 女三宮降嫁 (若菜巻)
- 13 柏木の悲恋 (柏木巻)
- 14 紫の上の死 (御法・幻巻)
- 15 まとめ

評価

授業の途中でリアクションペーパーを、最後にレポートを課します。

リアクションペーパーを含む平常点40点、レポート60点で、60点以上を合格とします。

授業外学習

- 【事前予習】テキストで、物語の概要や現代語訳をあらかじめ読んでおく。
- 【事後学修】授業で十分に読めなかったテキストの内容を自分で読み直しておく。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【テキスト】ビギナーズクラシックス日本の古典『源氏物語』角川書店編

【参考図書】『源氏物語』の参考文献はとてたくさんあるので、授業で適宜紹介します。

科目名	海外文学の名作		
担当教員名	落合 真裕		
ナンバリング	KGf221		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

海外文学作品の講読を通して、文学に関する知識、関心を広げ、各文学作品の文学史上の意義を理解していきます。主に、英語圏の文学の代表的作品を鑑賞し、その背景にある思想、文化に目を向けながら、作品に表れている人生観、世界観の変遷を探っていきます。文学作品を通して我々を取り巻く社会、文化について考え、文学の普遍的価値の洞察を深めるとともに言語芸術の神髄に触れます。

イギリスの文学作品は現代流行しているアニメや漫画と言った分野にも影響を与えていますが、それらには必ずと言っていいほどイギリス人の日常生活に深く浸透している「ユーモア」のセンスが盛り込まれています。「ユーモア」のセンスはイギリス人にとって人格を形成する上で不可欠な要素のひとつと考えられているようです。日本で言う笑いを誘う「ユーモア」のセンスとイギリスの「ユーモア」はどのように違うのか、小説、演劇、映画、コメディなどを通して考えていきます。イギリス人特有の「ユーモア」を理解することで、映画や文学に対する理解が深まるだけでなく、皆さん自身の人生をより楽しく生きるヒントが得られるはずです。戯曲を中心に扱いますが、現代のイギリス映画やコメディ番組にも取り上げていきます。

映画や演劇を通してイギリス人特有の「ユーモア」を理解することで、英国文学作品だけではなく英語文化圏に対する理解をより深めることを目指します。

内容	
1	ガイダンス
2	「ユーモア」の定義
3	英国の「ユーモア」と日本の「ユーモア」(1)
4	英国の「ユーモア」と日本の「ユーモア」(2)
5	紳士階級の「ユーモア」
6	英国のコメディ番組の「ユーモア」
7	英文学作品における「ユーモア」の特徴(1)
8	英文学作品における「ユーモア」の特徴(2)
9	『ロミオとジュリエット』における「ユーモア」(1)
10	『ロミオとジュリエット』における「ユーモア」(2)
11	『ハムレット』における「ユーモア」(1)
12	『ハムレット』における「ユーモア」(2)
13	英国映画・ドラマにおける「ユーモア」(1)
14	英国映画・ドラマにおける「ユーモア」(2)
15	英国映画・ドラマにおける「ユーモア」(3)

評価
レポート(70%)、授業態度・発表内容(30%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う作品について事前に作者やテーマや作品の特徴について調べておくこと。

【事後学修】授業内での意見交換で気づいた点や疑問点について次の授業までに調べて発表できるよう準備しておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

プリントを使用します。

科目名	音声表現		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング	KGf222		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格・・・「話す」「聞く」は、「読む」「書く」と並んでコミュニケーションの基本である。ところが、おしゃべりは得意でも、自分の考えや思いを的確に伝えることが苦手だという人が増えている。日本語の話しことばに着目し、理論と実践で音声表現の基礎を学ぶ。日本語を大切にしつつ言葉によって人と関わることの素晴らしさを伝えたい。生き生きしたクラスにするため、学生の皆さんの積極的な参加を希望する。

科目の概要・・・毎回声を出して日本語の「話す」「読む」という音声表現技術を磨く。また、「聞く」行為を中心に、教育・医療・介護の場でのコミュニケーションについて考察する。

学修目標 (=到達目標)・・・どんな社会にいても大切な「パブリック・スピーキング」の能力を高める。また、のびのびと自己表現できるように敬語の基本を身につける。

内容	
1	日本語の音声表現について基礎を学ぶ
2	わかりやすく「話す」「伝える」
3	「話す」と「読む」の関係
4	タイトルをつけてスピーチする
5	現代の敬語 間違いやすい敬語
6	現代の敬語 「敬語の指針」で基本を学ぶ
7	現代の敬語 敬語とコミュニケーションについて
8	「子どもとことば」について考察する
9	絵本や昔話について
10	医療・福祉の場でのコミュニケーションについて
11	「聞く」「聴く」「訊く」それぞれの違いとポイント
12	インタビューと報告
13	インタビューのポイント
14	教育の場でのコミュニケーションについて
15	まとめ

評価

課題作成 (3 0 %) 口頭発表や実習 (5 0 %) クラスへの貢献度 (2 0 %) とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業のテーマについて準備や予習をする

【事後学修】ほぼ毎回出される課題に取り組む

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使わない。

【推薦書】『新版NHKアナウンスセミナー』（発行：NHK出版）

【参考図書】好本恵著『話しことばの花束』（発行：リヨン社）

科目名	考える日本史		
担当教員名	松本 剣志郎		
ナンバリング	KGf223		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

選択科目である。

科目の概要

歴史を学ぶことの意味はなにか。歴史は現在や未来を知るのに役立つのだろうか。歴史は暗記物か。本授業では江戸時代を中心に、現在につながるトピックを選んで講義する。

学修目標 (= 到達目標)

日本近世の特徴を説明できる。歴史的なものの見方を身につける。われわれの常識や伝統と呼ばれるものも歴史的につくられてきたものであることを理解する。

内容

1	ガイダンス
2	近世の国家と社会
3	時間を支配する者
4	名前の歴史
5	武蔵野台地に生きる
6	「二ノキン」の拡散
7	農民の暮らし
8	休日の誕生
9	江戸時代の家族
10	武士とは
11	名奉行 大岡越前と遠山の金さん
12	のび太の土地所有宣言
13	江戸のペット事情
14	禅の系譜
15	まとめ

評価

レポート (20%) と期末試験 (80%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】推薦書や高校日本史の教科書を読み、日本近世について基礎的な理解をしておくこと。

【事後学修】授業中に紹介する参考文献を読み、授業理解を深めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。適宜プリントを配布する。

【推薦書】深谷克己『江戸時代』（岩波ジュニア新書、2000年）

【参考図書】高校日本史の教科書や図説

科目名	フィールドスタディ		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング	KGf224		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

授業はアクティブラーニング型 (参加型・体験型授業) で行います。教室での知識の伝授だけではなく授業を通して世の中の様々な事象を自分事として考え、調査をすることで明らかにすることを体験してもらいます。

科目の概要

コミュニティーデザインという観点から、世の中を観察し、インタビュー調査の技法、統計的な手法を学び、実践的にデザイン思考の本質を理解します。その上で、人と人をつなげ課題を解決するコミュニティーデザインとは何かを学びます

学修目標 (= 到達目標)

インタビュー技法や統計の基礎的知識のマスターと地域社会の課題を自分事として理解し何らかのアクションへと踏み出すきっかけづくり

内容

- 第1回 インストラクション (授業の進め方と評価について)
- 第2回 コミュニティーデザインとは
- 第3回 デザイン思考と問題発見解決
- 第4回 身の回りのワクワクを探す (課題発見)
- 第5回 リサーチの手法と調査票作成
- 第6回 インタビュー技法
- 第7回 統計的手法を学ぶ
- 第8回 データをどう読むか
- 第9回 写真、動画、音声の採り方
- 第10回 調査計画とチームビルディング
- 第12回 Outputを考える
- 第13回 修正からの学び
- 第14回 報告会
- 第15回 振り返り

評価

課題を基に総合的に評価します。 授業への参加意欲25%、授業ごとに提出する振り返りシート35%、提出物40%で総合して評価する。 以下、提出物等の評価は、振り返り・・・1~7ポイント (【基礎点】 ... 1ポイント、まとめ&感想

...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント) レポート・課題...3~8ポイント 最終課題
or試験...5~10ポイント とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】事前教材の確認。

【事後学修】* 毎回授業後48時間以内に まとめ(何を学べたか)&感想(質問えを含む) Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ(具体的な修正アイデア)」を提出。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

『コミュニティーデザインの時代』(中公新書)

科目名	フィールドスタディ		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング	KGf224		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

授業はアクティブラーニング型 (参加型・体験型授業) で行います。教室での知識の伝授だけではなく授業を通して世の中の様々な事象を自分事として考え、調査をすることで明らかにすることを体験してもらいます。

科目の概要

コミュニティーデザインという観点から、世の中を観察し、インタビュー調査の技法、統計的な手法を学び、実践的にデザイン思考の本質を理解します。その上で、人と人をつなげ課題を解決するコミュニティーデザインとは何かを学びます

学修目標 (= 到達目標)

インタビュー技法や統計の基礎的知識のマスターと地域社会の課題を自分事として理解し何らかのアクションへと踏み出すきっかけづくり

内容

- 第1回 インストラクション (授業の進め方と評価について)
- 第2回 コミュニティーデザインとは
- 第3回 デザイン思考と問題発見解決
- 第4回 身の回りのワクワクを探す (課題発見)
- 第5回 リサーチの手法と調査票作成
- 第6回 インタビュー技法
- 第7回 統計的手法を学ぶ
- 第8回 データをどう読むか
- 第9回 写真、動画、音声の採り方
- 第10回 調査計画とチームビルディング
- 第12回 Outputを考える
- 第13回 修正からの学び
- 第14回 報告会
- 第15回 振り返り

評価

課題を基に総合的に評価します。 授業への参加意欲25%、授業ごとに提出する振り返りシート35%、提出物40%で総合して評価する。 以下、提出物等の評価は、振り返り・・・1~7ポイント (【基礎点】 ... 1ポイント、まとめ&感想

...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント) レポート・課題...3~8ポイント 最終課題
or試験...5~10ポイント とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】事前教材の確認。

【事後学修】* 毎回授業後48時間以内に まとめ(何を学べたか)&感想(質問えを含む) Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ(具体的な修正アイデア)」を提出。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

『コミュニティーデザインの時代』(中公新書)

科目名	生涯学習概論		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング	KGf225		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書 / 学芸員資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

司書、ならびに学芸員の必修科目として、生涯学習の理論と実際に関する基礎知識を学ぶ

科目の概要

生涯学習社会における社会教育の本質と意義、法と制度をはじめ、学校教育・社会教育・家庭教育の連携、社会教育施設（公民館・図書館・博物館）の役割や運営と評価、市民活動と社会教育など、人々の多様な学習活動の諸相について幅広く概説し、市民の視座から生涯学習の全体像を考える。職業の場や地域での学びなど、社会の中の様々な学習機会について見識を広めることにより、主体的に生涯学び続けることの意義と、多様な学習活動への支援の方法を考える。

学修目標 (= 到達目標)

本科目では、学校教育、社会教育、家庭教育ならびに地域コミュニティの連携に基づく、生涯学習社会の意義と役割について、法的制度的側面と地域活動等の実際の側面の双方から理解する。また地域における生涯学習の具体的なあり方について実態について認識する。

内容	
1	生涯学習とはなにか
2	生涯学習の歴史的展開
3	生涯学習の理念と理論
4	生涯学習の内容と形態
5	生涯学習の方法
6	学校教育と生涯学習
7	社会教育制度
8	社会教育と生涯学習
9	地域コミュニティと生涯学習
10	街づくりと生涯学習
11	新座市における生涯学習とコミュニティ
12	生涯学習政策の展開
13	生涯学習の今日的課題
14	新座市民総合大学に関するワークショップ
15	まとめ

評価

毎時間の小レポートを30%とし、最終課題70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】テキストの予習

【事後学修】新座市の生涯学習ワークショップのふりかえり

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「テキスト生涯学習 学びがつむぐ新しい社会」田中雅文他（学文社）

【推薦書】

【参考図書】